

協会記事

理事会（平成16年度第6回）

平成17年3月22日（火）17:30～19:20、当協会役員室において開催。

出席：肥田 昇（会長）、嶋崎吉彦（副会長）、野上道男（副会長）、大森博雄、長瀬和雄、西田耕一、三上岳彦、盛谷智之の各理事（大島章一、田村俊和理事は欠席、委任状提出）、田邊 裕監事（佐藤俊典監事は逝去）。

・議事録の承認：平成16年度第5回理事会議事録は承認された。

・報告事項：

1. 編集委員長報告：大島理事欠席のため嶋崎理事が報告

113巻6号は遅れたが発行済み。114巻1号（2月発行予定）は通常号で、論文5編、スマトラ大津波関連の原稿1編。他に地学クラブ200回記念等で近日中に発行予定。114巻2号（4月発行予定）は特集「古地磁気研究の新展開（または最前線）」（仮題）で、17編、180～200ページ位になる予定。114巻3号の通巻1000号記念特集号は、仮題「最近の地学」で、14編を掲載予定。一部は査読中、他は催促中。114巻5号は「近年の岩石物性と地球科学・地殻工学（仮題）」特集の予定で、西澤委員と地震研の佐野 修氏がオーガナイザーで進行中。その他2～3の特集申し込みがあるが、掲載の方向で調整中。

2. 行事委員長報告：三上理事

3月に実施したアフリカ巡検の結果がCDを使って報告された。参加した理事からの発言も有り、全体としては成功で、案内者の活躍が評価された。

3. 図書委員長報告：長瀬理事

バックナンバーCD作成事業の進行状況が報告された。

4. 会館委員長報告：盛谷理事

来る3月29日に賃貸料改訂等を審議する委員会を開催する予定が報告され、活発な意見交換があった。

5. 日本地学史編纂委員会報告：大森理事

3月8日に開催された委員会についての報告があった。前回理事会で意見のあった「陸水学」が「湖沼学」かについては、原稿を一部補足した上で「陸水学」とすることになった旨が報告された。また「人文地理」の取扱いについては過去の経緯が報告された。今後の対象は1950年から60年代までになりそうであるとのことである。

6. ジオエキスパート委員長報告：野上理事

ホームページへの掲載はまだおこなわれていないので広報担当に催促することになり、関連して広報業務について次回までに調査の必要があることが合意された。

7. 庶務担当事項報告：嶋崎理事

文部科学省からの報告書、計画書等作成についての指示、庶務委員会（持ち回り）で職員給与について決定した事項、および3月18日に開催された地学クラブ世話人会（世話人2名が交代）の報告があった。また、表彰事業再開についての考え方が報告された。

8. 地質科学関連学協会連合懇談会について：盛谷理事

2月7日地質学会事務局において開催された懇談会の内容が出席した盛谷理事から報告された。6月25日（土）に「地質災害を考える（地質科学からの提言）」のテーマのシンポジウムを開催することなどが決まった。当協会から幹事を選出する必要があるとのことと、地理連合とともに決定することとした。

・議 題：

1. 会員の入退会等の承認

入 会：小原規宏、小森次郎、牧野康彦、村上 浩康 4名

退 会：中山正民、佐藤俊典（逝去）、池谷仙之、藤井宏志（申し出による） 4名

2. 職員給与について

平成17年度職員給与について、庶務委員長報告どおり今年度は変更しないこととなった。

3. 地質科学関連学協会連合及び地理関連学会連合担当について

報告事項で盛谷理事から提議された件につき、前者については盛谷理事が、後者については引き続き田邊監事が担当者に選任された。

4. 平成 17 年度事業計画および予算案について
文部科学省から指示があったように定款の条文を付け加えた 17 年度事業計画および一部修正した平成 17 年度予算案が文科省提出用として承認された。
5. その他
次回理事会、平成 17 年度第 1 回評議員会、総会、理事会、第 2 回評議員会および春季講演会の日程が決定された。

理事会（平成 17 年度第 1 回）

平成 17 年 5 月 16 日（月）17:30 ~ 19:00、当協会役員室において開催。

出席：肥田 昇（会長）、嶋崎吉彦（副会長）、野上道男（副会長）、大森博雄、大島章一、長瀬和雄、田村俊和、西田耕一、三上岳彦、盛谷智之の各理事、田邊 裕監事 および事務局。

・議事録の承認：平成 16 年度第 6 回理事会議事録は承認された。

・報告事項：

1. 編集委員長報告：大島理事

114 巻 1 号（2 月発行予定）は 4 月 8 日、120 頁で発行。114 巻 2 号は特集「地磁気・古地磁気研究の最前線」で 5 月 20 日発行予定。250 冊増刷する。114 巻 3 号の通巻 1000 号記念特集号は、仮題「最近の地学」で、13 編 + 前書きを掲載予定。一部は査読または修正依頼中、他は催促中。114 巻 4 号、5 号は通常号で内容は未定。114 巻 6 号（12 月発行）は「近年の岩石物性と地球科学・地殻工学（仮題）」特集の予定で、西澤委員と佐野 修氏がオーガナイザーで進行中。その他 2 ~ 3 の特集申し込みがあるが、掲載の方向で調整中。

2. 行事委員長報告：三上理事

5 月 28 日開催の春季講演会講師、演題が報告された。

3. 経理委員長報告：西田理事

16 年度決算にともなう繰越収支差額の確定

および租税公課の変更により、17 年度予算案を一部変更する旨の報告があった。

4. 図書委員長報告：長瀬理事

バックナンバー CD 作成事業の進行状況が報告された。

5. 会館委員長報告：盛谷理事

3 月 29 日に開催された会館委員会の内容が報告された。更に担当している地質関連学協会懇談会の今後の計画について、6 月 18 日開催のシンポジウムに協賛する件を含め報告があった。

6. 広報委員長報告：田村理事

ジオエキスパート委員会提出のホームページ用原稿の取扱いについての委員の意見などが報告され、近いうちに結論が得られる予定であるとの報告があった。

7. 日本地学史編纂委員会報告：大森理事

4 月 15 日に開催された委員会についての報告があり、今後対象とする期間について、分野による意見の違いがあり、分野間で差があることを認める方向になったことが報告された。

8. 助成委員長報告：野上理事

5 月 10 日に開催された委員会について報告があった。14 件の申請に対する評価結果が報告され、更に今後の助成事業についての出席委員の意見が紹介された。

9. ジオエキスパート委員長報告：野上理事

ホームページへの掲載について引き続き広報委員会と連絡をとりつつ推進すること、関連機関が持っている情報の収集を図ることなどが報告された。

10. 庶務担当事項報告：長谷理事

大学評価・学位授与機構からの依頼により専門委員候補者として 2 名を推薦したこと、産総研との地球科学図等委託販売契約を更改したこと、関連して委託先に変更があったこと、3 月に実施された選挙の結果、および佐藤監事の葬儀、中野会員の逝去について報告があった。

・議 題：

1. 会員の入退会等の承認

入 会：近藤玲介、新井智一、斎藤武士、金原

啓司, 原山 智 5名
退 会: 中野猿人(逝去)

2. 平成 16 年度事業報告および決算について

嶋崎理事から事業報告, 西田理事から決算報告, 更に田邊監事から監査報告があり, 今後の資金運用, 事業計画などについて意見の交換があり, 本案を評議員会および総会に提案することが了承された。

3. 助成対象の決定について

助成委員長から委員会としての案が示され, 意見交換の後, 原案通り 9 件(調査・研究助成 8 件および国際研究集会援助 1 件, 別紙 1 参照)への助成が決定された。なお次期委員会に申し送る検討を要する事項が提案された。

4. 平成 17 年会長・理事・監事・評議員選挙結果の承認について

4 月 6 日に開票された選挙結果が庶務担当理事から別紙 2 の通り報告され, 全員一致で承認された。

5. 細則の一部改訂について

事務局提出の賛助会員の会費に関する改訂案が了承された。

6. 総会・評議員会および理事会の議事について

5 月 28 日(土)11時から開催する一連の会議, および引き続いて開催される春季講演会の時間割と議題が検討され, 次のように決定された。

「アフリカ, サバンナの農牧地域に分布する *Acacia albida* をめぐる景観分析」(首都大学東京大学院理学研究科 堀 信行)

【別紙 1】

・調査・研究助成

1. 小松俊文(熊本大):「古生代末大量絶滅後の三疊紀二枚貝化石群集の構成変化」(48 万円)
2. 成瀬敏郎(兵庫教育大):「レス 古土壌編年による韓国中西部の更新世段丘・山麓緩斜面の形成期に関する研究」(50 万円)
3. 斎藤享治(埼玉大):「アイスランドの融氷河流扇状地の位置づけ 沖積扇状地の定義の確立に向けて」(50 万円)
4. 遠藤 毅(基礎地盤コンサルタンツ):「東京

低地における工場分布を主体にした土地利用状況の変遷 明治初期 平成 10 年代初期まで」(23.5 万円)

5. 村上浩康(産総研):「花崗岩及びその風化粘土殻における希土類元素の挙動解明:日本と中国の希土類メタロジェニー」(50 万円)
 6. 澤田結基(北海道大):「岩塊斜面の永久凍土コアによる古気候復元」(50 万円)
 7. 青山雅史(東京都立大):「中部山岳地域における最終氷河期極相期以降の山岳永久凍土環境の変動とその地形変化への影響」(50 万円)
 8. 小森次郎(日本大):「地球温暖化にともなう氷河湖の形成・拡大特性の解明」(48 万円)
- ・国際研究集会援助金
1. 村山祐司(筑波大):「明日の都市をモニタリングする」研究集会の開催 (50 万円)

【別紙 2】

平成 17 年選出役員・評議員候補者一覧

役員

理事, 会長: 前島郁雄

理事(9 名): 江藤哲人, 大森博雄, 笠原順三, 高村弘毅, 田村俊和, 西田耕一, 長谷紘和, 三上岳彦, 盛谷智之

監事(2 名): 嶋崎吉彦, 田邊 裕

評議員(18 名):

在田一則, 石原文実, 岩田修二, 岡田博有, 小川克郎, 柏木高明, 加藤碩一, 小玉喜三郎, 斎藤享治, 斎藤常正, 斎藤靖二, 杉浦芳夫, 谷内達, 田林 明, 鳥海光弘, 福田正己, 増田富士雄, 守屋以智雄 (50 音順)

評議員会(平成 17 年度第 1 回)

平成 17 年 5 月 28 日(土)11時から 12 時まで当協会会議室において開催された。

評議員 20 名中, 出席者 7 名, 委任状提出者 12 名, 計 19 名により定足数 14 名の本会は成立した。

肥田会長の開会宣言に続き, 議長に藤井昭二評議員, 議事録署名人に柏木高明, 谷内 達両評議員が選出された。

議事に入り、まず平成16年度事業報告及び決算報告が嶋崎、西田両理事からなされ、また業務・会計監査の結果問題が無かった旨が田邊監事から報告され、了承された。

次に平成17年度事業計画及び予算が提案され、嶋崎、西田両理事からの説明、質疑応答の後、承認された。さらに、平成17年選挙の結果、選出された役員・評議員が報告され、認められた。

以上で議事を終了、議長が閉会を宣した。

平成17年度(第126回)通常総会

平成17年5月28日(土)13時から13時45分まで当協会講堂において開催された。

正会員の出席者30名、委任状提出者440名、合計470名によって定足数414名の本総会は成立した。

肥田 昇会長の開会宣言に続き、定款第29条の規定により肥田昇会長が議長となり、議事録署名人として嶋崎吉彦、盛谷智之両会員が指名された。

議事案件に入る前に、肥田議長から前期総会から今期総会までの間の会員の異動について報告があり、この間に逝去された会員に対し、全員黙祷を捧げた。

議事の経過及び結果

第1号議案 平成16年度事業報告並びに収支決算承認の件

嶋崎庶務担当理事から平成16年度の事業について、西田経理担当理事から決算について報告がなされ、また田邊監事から業務・会計監査の結果問題ない旨報告され、質疑応答の後、全会一致で本案は承認された。

第2号議案 平成17年度事業計画並びに収支予算承認の件

嶋崎理事から平成17年度の事業計画の概要、西田理事から収支予算についてそれぞれ説明があり、審議の結果、全会一致で本案は承認された。

第3号議案 会長・理事・監事及び評議員選任の件

3月に行なわれた選挙結果が報告され、各

候補者について表決の結果、満場一致で候補者全員が報告どおり選任された。なお理事、監事の就任日は平成17年5月28日とすることに決定した。

以上により議事を終了し、13時45分議長が閉会を宣言した。さらに肥田昇前会長及び前島郁雄新会長から挨拶があった。

理事会(平成17年度第2回)

平成17年5月28日(土)13:45~14:00、当協会役員室において開催。

出席：前島郁雄(会長)、盛谷智之、大森博雄、江藤哲人、笠原順三、高村弘毅、田村俊和、西田耕一、長谷紘和、三上岳彦の各理事と田邊 裕、嶋崎吉彦の両監事。

新役員の初めての会議なので、最初に全員の簡単な自己紹介があった。次に前島新会長が盛谷理事及び大森理事をそれぞれ副会長に指名、会長代行の順序をこのとおりとすることとした。

理事の会務分担については下記の通りに決まった。

記

盛谷智之：副会長、会館、大森博雄：副会長、助成、江藤哲人：図書及び広報、笠原順三：編集、高村弘毅：地学史、田村俊和：将来計画、西田耕一：経理、長谷紘和：庶務、三上岳彦：行事

評議員会(平成17年度第2回)

平成17年5月28日(土)14時から14時半まで当協会会議室において新しい評議員による第2回評議員会が開催された。

評議員21名中、出席者6名、委任状提出者12名、計18名により定足数14名の本会は成立した。

前島郁雄会長が開会を宣言し、まず平成17年度選出役員・評議員の紹介があった。

次に議長に谷内 達評議員が選出され、議事録署名人として加藤碩一、柏木高明両評議員が選任された。

議事としては、平成17年度第2回理事会において決められた各役員の担当会務について説明が行なわれた承された。

理事会（平成 17 年度第 3 回）

平成 17 年 7 月 4 日（月），17：30～20：00，当協会役員室において開催。

出席：前島郁雄（会長），盛谷智之（副会長），大森博雄（副会長），江藤哲人，笠原順三，高村弘毅，田村俊和，西田耕一，長谷紘和，三上岳彦の各理事および嶋崎吉彦監事（田邊 裕監事は欠席）

・議事録の承認：平成 17 年度第 1 回及び第 2 回理事会議事録は承認された。

・報告事項：

1. 編集委員長報告：笠原理事

114 巻 2 号特集「地磁気・古地磁気研究の最前線」は，5 月 19 日納品された。199 ページ＋口絵 2 ページで，250 冊増刷した。114 巻 3 号の通巻 1000 号記念特集号は，前回報告の通りの内容で，一部は査読または修正依頼中，他は催促中。7 月 19 日に特集号編集委員会を開催予定。114 巻 4 号，5 号は通常号。どちらかに 16 年度助成金による調査研究報告を掲載する予定。なお 6 月 27 日の第 6 回委員会は新旧委員合同で開催した。更に編集担当職員の健康問題とそれに伴い業務の一部を外部へ委託する件についての協力要請があった。

2. 行事委員長報告：三上理事

新委員候補者の披露と委員が決定次第委員会を早急に開催したい旨の報告があった。

3. 経理委員長報告：西田理事

経理委員全員の再任を求める報告があった。

4. 図書委員長報告：江藤理事

バックナンバー CD 作成事業が完了した事などが報告された。

5. 会館委員長報告：盛谷理事

会館賃貸料更改の件がこれまでと同額で決着したことの報告があった。

更に担当している地質関連学協会懇談会が協賛したシンポジウム「高く乏しい石油時代が来た」に出席した報告があった。

また，ジオエキスパート委員長からの他の学協会等に依頼する文案の提示があり，承認された。

6. 広報委員長報告：江藤理事

前委員長の申し送りを受け，委員候補者を選んだこと，事業内容はほぼ前年のまま継続することなどが報告された。ホームページについては，全体管理は広報委員会が責任を持つが，担当委員会から申請があれば，委員会に管理を任せるよう求める意見が出され，そのとおりに決定された。

7. 日本地学史編纂委員会報告：高村理事

6 月 3 日に開催された委員会についての報告があり，「日本地学の展開〈その 6〉」の原稿がほぼ出来上がったこと，続いて「日本地学の再建（仮称）」の検討が開始されたことが報告された。

8. 庶務担当事項報告：長谷理事

英国からの雑誌寄贈断りの件，2 箇所からの受賞候補者推薦依頼の件，についての報告の後，1 日午後 to 実施された文部科学省による公益法人実地検査の結果，特に問題はなかったが，事務処理規程類の整備の必要を感じた旨報告された。

・議 題：

1. 会員の入退会について

入 会：石原 肇，楳原京子，上野宏共，田中裕一郎，下司信夫，山口正秋，丸山茂徳 7 名
退 会：岡村光展，神崎洋一，武内寿久禰，富田宰臣 4 名

2. 各委員会委員の選任について

各委員長から委員候補者の推薦があり，意見交換の結果，別紙の通り決定した。なお，今後の追加の余地を残すことも了承された。

3. その他

夏季休館日を事務局提案の通り 8 月 12 日（金）から 17 日（水）までの実質 4 日間とすることに決定した。

庶務担当理事から職員の勤務条件に「フレックスタイム制を取り入れることができる」という条件を加えたいとの提案があり，全員の承認を得た。

次回理事会は 9 月 12 日（月）17：30 から開催することとなった。

理事会（平成 17 年度第 4 回）

平成 17 年 9 月 12 日（月），17：30～19：30，当協会役員室において開催。

出席：前島郁雄（会長），盛谷智之（副会長），大森博雄（副会長），江藤哲人，笠原順三，田村俊和，西田耕一，長谷紘和，三上岳彦の各理事（高村弘毅は欠席，委任状提出）田邊 裕監事（嶋崎吉彦監事は欠席）及び事務局。

・議事録の承認：平成 17 年度第 3 回理事会議事録承認された。

・報告事項：

1. 編集委員長報告：笠原理事

114 巻 3 号の通巻 1000 号記念特集号「21 世紀初頭の地球環境科学」は，13 編と前書きからなり，査読または修正依頼中だが未着のものもあり遅れている。200 頁くらいになる予定である。114 巻 4 号は通常号で助成金による調査研究報告を掲載，140 150 頁になる予定で 8 割程度出来上がっている。5 号（通常号）は「地学史その 6」を掲載，その他の内容を検討中。114 巻 6 号は特集「近年の岩石物性研究」で，西澤委員と地震研佐野 修氏をオーガナイザーとし 15 編掲載予定。一部は査読中である。115 巻 2 号は「特集：地盤・岩盤と間隙水の力学的相互作用と地下流体挙動」（仮題）としてオーガナイザーに東大の徳永朋祥氏，編集委員会から笠原，江口両委員が参加し 9 月 1 日に第 1 回の委員会を開催，今後のスケジュール等を検討した。

なお鳥海委員の後任は千葉大の伊藤 慎氏に決まった。

2. 経理委員長報告：西田理事

8 月に国債を購入し，その結果収支計算書に若干の変化が生じることが報告され了承された。

3. 図書委員長報告：江藤理事

11 月下旬に委員会を開催の予定であること，関連して完成したバックナンバー CD の保管場所についての再検討の必要性があると報告された。

4. ジオエキスパート委員会報告：盛谷理事

ホームページに関連事項を掲載し，見出しをトップ頁に置く作業が進行中であることが報告された。

5. 広報委員長報告：江藤理事

7 月 25 日に開催された委員会について報告があった。ホームページの維持管理について，前年度と同じ業者に委託するが，予算執行について合理性，透明性を高めるようにしたこと，行事，ジオエキスパート両委員会に作業を依頼中であることなどが報告された。

6. 庶務担当事項報告：長谷理事

メキシコからの雑誌寄贈断りの件，フレックスタイム制を一部職員に採用したこと，大学評価・学位授与機構専門委員の件，文部科学省実地検査結果の文書による通知の件，12 月を目標に名簿作成作業を開始したこと，12 月 20 日開催予定の年末懇談会会場を予約したことなどが報告され，名簿作成については多くの意見交換があった。

7. その他

大森理事から助成委員会担当業務について，理事の意見を求める発言があり，多くの発言があった。

・議 題：

1. 会員の入退会について

入 会：小松陽介，竹野直人，村岡洋文，矢野雄策 4 名

2. 第 3 回評議員会及び秋季講演会について

三上行事委員長から講演会の講師，演題等についての提案があり，10 月 22 日（土）13 時から評議員会，引き続いて 14 時から講演会を開催することに決定した。評議員会の議題は名簿と助成についての意見交換を中心にする事となった。講演会講師と題目などは次の通り。

福沢仁之（首都大学東京 教授）：「2020 年問題：イースター島からの提案」約 1 時間半

3. 日本地球惑星科学連合への加盟について

長谷理事からの説明を受け，意見交換の後，加盟を申請することになった。当面田村将来計画委員長を中心に，滝沢，古宇田両会員をそれぞれ連合の教育問題検討委員会，国際委員会の

委員として推薦することとし、他に盛谷、野上両会員の計5名を将来計画委員として委嘱し、この関連の業務を担当することとなった。

4. その他

次回理事会は11月14日(月)17:30から開催することとなった。

平成 16 年度事業報告書

(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

1. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

2. 事業内容

(1) 公益事業

講演会及び地学見学会の開催(定款第 4 条の一)

地学に関する学術の交流と普及を目的として、講演会及び見学会を開催した。

ア. 定例の講演会及び見学会

- i) 平成 16 年 5 月 22 日(土) 春季講演会(当協会講堂)

「天山山脈のウルプト氷河 1983 年 2003 年の変化」

講演者 東京都立大学大学院 堀 信行ほか

- ii) 平成 16 年 10 月 1～3 日(金、日) 見学会
見学地：樽前・支笏・有珠及び昭和新山ほか
見学テーマ：「火山の猛威を知る」北海道支笏火山・有珠火山 過去及び現在の噴火

案内者：北海道大学低温科学研究所 福田正己ほか

イ. 特別企画の見学会、講演会

- i) 平成 17 年 3 月 1 日(火)～11 日(金) 第 8 回海外巡検

見学テーマ：インド洋からピクトリア湖まで、リフトバレー横断の旅

見学対象：ツアボ国立公園、ナイロビ、ピクトリア湖、ナクル国立公園など

案内者：東京都立大学大学院 堀 信行ほか

- ii) 平成 16 年 10 月 16 日(土) 公開講演会
テーマ：南極大陸の氷から地球環境の過去をさぐる

講演者：国立極地研究所 藤井理行

ウ. 上記に関連し行事委員会を 1 回開催した。

地学雑誌の発行・頒布(定款第 4 条の二)

会員の研究成果の発表を目的とした通常号と、最新の話題や成果を取り上げた特集号を出版し

た。地学雑誌を年 6 回(113 巻 2 号から 114 巻 1 号まで)、(若干の遅れがあったが) 定期(偶数月 25 日)に発行し、そのうち 1 号(113 巻 5 号)を編集委員会の企画による特集号“観測的変成岩科学への革新”とした。

オンラインジャーナルは、引き続き冊子体本誌発刊 2 ヶ月後に地学雑誌ホームページに掲載している(<http://www.geog.or.jp/journal/>)。

編集委員会は通常号について 11 回、特集号について 1 回開催した。

地質図幅等の頒布(定款第 4 条の二)

独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター発行の地球科学図等の出版物を引き続き受託頒布し、利用者の便宜を図った。

日本地学史の編纂(定款第 4 条の三)

日本地学史編纂委員会は、平成 16 年 5 月 14 日から、平成 17 年 3 月 8 日までの間に 6 回開催し、それぞれ執筆状況及び内容の検討を行った。今年度は、「日本地学の展開<その 5>(大正 13 年～昭和 20 年)」をとりまとめ、地学雑誌(113 巻 6 号)に掲載した。

地学に関する調査・研究費助成(定款第 4 条の三)

当協会が適当と認める研究・調査を助成し、地学の発展に寄与することを目的とし、16 年度は会員又は会員が加わっている研究グループを対象に、地学に関する研究・調査 6 件、国内で開催される国際研究集会 2 件に対し、総額 3,887 千円の助成を行った。

広報活動(定款第 4 条の四)

協会の広報と情報化の促進を図るため、14 年度に取得した新しい URL([geog.or.jp](http://www.geog.or.jp))を使い、ホームページの更新、地学雑誌データの増加などさまざまな試行を行いつつある。広報委員会を 1 回開催した。

図書室の整備(定款第 4 条の五)

図書室補助員による図書雑誌の整理を引き続いて行ったほか、前年度に引き続き地学雑誌バック

ナンバーのCD-ROM化を続け、本年度は7枚目（昭和63年97巻まで）を作成した。関連して図書委員会を2回開催した。

ジオエキスパート委員会の設置（定款第4条の八）

平成16年度から新しく設置された本委員会は、新規事業として事業内容を検討するための運営委員会を1回開催し事業の紹介のためのホームページを作成した。

地学クラブ講演会の支援（定款第4条の一）

地学クラブは、地学の発展を目的として9回の講演会（第206回～214回）を開催し、協会はこれに対し全面的な支援をした。

企画世話人会（講演テーマ、講演者決定等）を

1回開催した。

(2) 収益事業（会館特別会計）（定款第4条の七）

公益事業を支援するために、収益事業として引き続き地学会館ビルの一部を賃貸している。16年度も前年度同様、必要な補修工事や点検を実施した。

(3) その他定款に基づく会議の開催

通常総会（1回）平成16年5月22日

評議員会（2回）平成16年5月22日及び10月16日

理事会（6回）平成16年5月10日、7月16日、9月27日、11月29日、平成17年1月31日、及び3月22日

以上の会議を開催した。

収支計算書 総括表

平成16年度 第126期

（自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日）

（単位：円）

科 目	一般会計	会館会計	相 殺	合 計
. 収 入 の 部				
基本財産運用収入	9,567	0	0	9,567
会 費 収 入	4,106,000	0	0	4,106,000
事 業 収 入	8,424,820	0	0	8,424,820
会 館 収 入	0	121,691,223	- 2,083,915	119,607,308
雑 収 入	82,155	103,802	0	185,957
繰 入 金 収 入	45,887,000	0	- 45,887,000	0
当期収入合計	58,509,542	121,795,025	- 47,970,915	132,333,652
前期繰越収支差額	42,662,897	74,036,381	0	116,699,278
収 入 合 計	101,172,439	195,831,406	- 47,970,915	249,032,930
. 支 出 の 部				
事 業 費	33,891,781	0	- 1,041,957	32,849,824
会 館 事 業 費	0	47,053,326	0	47,053,326
管 理 費	13,754,865	0	- 1,041,958	12,712,907
その他の支出	2,998,578	0	0	2,998,578
固定資産購入支出	0	0	0	0
借入金返済支出	0	22,090,602	0	22,090,602
特定預金支出	0	37,453,000	0	37,453,000
繰 入 金 支 出	0	45,887,000	- 45,887,000	0
予 備 費	0	0	0	0
当期支出合計	50,645,224	152,483,928	- 47,970,915	155,158,237
当期収支差額	7,864,318	- 30,688,903	0	- 22,824,585
次期繰越収支差額	50,527,215	43,347,478	0	93,874,693

正味財産増減計算書 総括表

平成16年度 第126期

(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	会館会計
. 増 加 の 部			
資産増加額	48,365,145	10,912,145	37,453,000
負債減少額	53,114,800	0	53,114,800
増加額合計	101,479,945	10,912,145	90,567,800
. 減 少 の 部			
資産減少額	49,888,160	3,378,550	46,509,610
負債減少額	0	0	0
減少額合計	49,888,160	3,378,550	46,509,610
当期正味財産増加額	51,591,785	7,533,595	44,058,190
前期繰越正味財産額	253,463,068	63,723,951	189,739,117
期末正味財産額合計	305,054,853	71,257,546	233,797,307

貸借対照表 総括表

平成16年度 第126期

(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

(単位:円)

科 目	一般会計	会館会計	相 殺	合 計
. 資 産 の 部				
1. 流 動 資 産	52,378,083	75,318,527	- 3,615,465	124,081,145
2. 固 定 資 産				
(1) 基 本 財 産	10,000,000	0	0	10,000,000
(2) その他の固定資産	9,782,504	310,128,733	0	319,911,237
資 産 合 計	72,160,587	385,447,260	- 3,615,465	453,992,382
. 負 債 の 部				
1. 流 動 負 債	903,041	51,971,049	- 3,615,465	49,258,625
2. 固 定 負 債	0	99,678,904	0	99,678,904
負 債 合 計	903,041	151,649,953	- 3,615,465	148,937,529
. 正味財産の部				
正 味 財 産	71,257,546	233,797,307	0	305,054,853
負債及び正味財産合計	72,160,587	385,447,260	- 3,615,465	453,992,382

財 産 目 録

平成 16 年度 第 126 期

(自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金			
現金 現金手元有高	651,560		
普通預金 みずほ銀行飯田橋支店	105,699,049		
普通預金 みずほ銀行麹町支店	1,877,440		
普通預金 東京三菱銀行麹町支店	2,062,634		
普通預金 三井住友銀行麹町支店	1,685,091		
普通預金 住友信託銀行東京営業部	327,703		
金銭信託 住友信託銀行東京営業部	395,202		
金銭信託 みずほ信託銀行本店	43,894		
振替貯金	390,745		
定期預金 みずほ銀行飯田橋支店	10,000,000		
受託頒布地質図幅等 販売用地質図他	947,827		
流動資産合計		124,081,145	
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定期預金 住友信託銀行東京営業部	10,000,000		
(2) その他の固定資産			
建 物 東京都千代田区二番町 12 2 2,927.48 m ²	193,048,029		
構 築 物 塀外	1,296,960		
図 書 CHINA 第 2 巻, 手書彩色関東 実測図覆刻版一揃外	1,843,113		
什器備品 カーベット, パソコン他	4,981,347		
土 地 東京都千代田区二番町 12 2 505.04 m ²	2,225,340		
電話加入権 03 (3261) 0809 外 5 本	323,448		
貸付信託 住友信託銀行東京営業部	1,000,000		
貸付信託 みずほ信託銀行本店	1,740,000		
定期預金 住友信託銀行東京営業部	36,000,000		
敷金返還積立金 定期預金 みずほ銀行飯田橋支店	20,000,000		
東京三菱銀行麹町支店	39,679,000		
	59,679,000		
減価償却積立金 定期預金 みずほ銀行飯田橋支店	17,774,000		
その他の固定資産合計	319,911,237		
固 定 資 産 合 計		329,911,237	
資 産 合 計			453,992,382
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
1 年以内返済予定の長期借入金 みずほ銀行	20,000,000		
未払金 未払法人税, 地球科学図等頒布代金	18,940,163		
前受金 会館賃貸収入分	9,966,484		
預り金 職員に対する源泉所得税他	351,978		
		49,258,625	
2. 固 定 負 債			
長期借入金 みずほ銀行	40,000,000		
預り敷金 第一建築サービス(株)	59,678,904		
固 定 負 債 合 計		99,678,904	
負 債 合 計			148,937,529
正 味 財 産			305,054,853

平成 17 年度事業計画書

(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

1. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

2. 事業内容

(1) 公益事業

講演会及び地学見学会の開催(定款第 4 条の一)

地学に関する学術の交流と普及を目的として、講演会及び見学会を開催する。

ア. 定例の講演会及び見学会

講演会は春季と秋季に定例講演会(地学協会講堂)を実施する。

見学会は夏季あるいは秋季に 1 回開催する。対象は原則として会員とその同伴者とする。ただし、案内者の紹介があれば、会員以外でも参加を認める。

イ. 特別企画の見学会

海外見学会(巡検)と国内の見学会を参加者公募でそれぞれ 1 回行う。

国内見学会については、一般の人、特に比較的若い人たちを対象に、地学について興味を持ってもらう目的で、「地学を楽しむ会」として開催する。

海外見学会(巡検)については、外国の地学的に興味のある場所・施設を、専門家による話を聞きながら見学する。

事業費：総額 180 万円

内訳：

ア) の講演会及び見学会

春季・秋季講演会の開催：20 万円

定例見学会の実施：40 万円

イ) 海外見学会及び国内見学会

海外見学会の実施：60 万円

国内見学会の実施：30 万円

委員会開催費：20 万円

広報・雑費：10 万円

地学雑誌の発行・頒布(定款第 4 条の二)

会員の研究成果の発表を目的として地学雑誌の

発行を継続する。地学雑誌の編集・発行を通じ、地学の普及と発展に寄与する。

地学雑誌は年 6 回、偶数月の 25 日に発行する。偶数号は可能であればその年のホットな地学界の問題点を取り上げ、特集号とする。そのうち 1 号を編集委員会の企画による特集号とする。平成 17 年度は 114 巻 2 号から 115 巻 1 号までを発行する。月例の編集委員会は年 11 回開催し、特集号の企画・編集のための会議は随時開催する。

なお、別刷は著者ごとに CD-ROM 一枚にまとめ、これを各著者に無償で提供する(印刷物の別刷が必要な場合には有償で提供する)。さらに年度末には会誌一巻を一枚の CD-ROM にまとめ、地学協会の原備データとする。

地学雑誌出版費：総額 1,865 万円

内訳：編集費 305 万円、印刷製本費 1,458 万円

地学雑誌発送費 102 万円

編集用パソコンは引き続きリースで対応する。

地質図幅等の頒布(定款第 4 条の二)

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成 17 年 4 月 1 日に契約された「地球科学図及び地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター(旧工業技術院地質調査所)発行の地球科学図及び地球科学データ集等出版物を委託販売により頒布し、利用者の便宜を図る。

日本地学史の編纂(定款第 4 条の三)

日本地学史の刊行を目的とし、日本の地学の発展過程を多角的、具体的に解明する。取扱う項目は地理、地質、岩石・鉱物、地震・火山、地球物理、地球化学、測地、気候・気象、海洋、陸水などで、その時代的範囲は明治以前から昭和 35(1960)年までとする。

日本地学史編纂委員会を構成し、年 3～4 回委員会を開催する。

委員会費：45 万円

地学に関する調査・研究費助成(定款第 4 条

の三)

当協会が適当と認める研究・調査を助成し、地学の発展に寄与することを目的とする。

助成対象は会員又は会員が加わっている研究グループとし、地学に関する研究・調査、及び国内で開催される国際研究集会に対して助成を行う。

助成委員会は、応募者の中から助成対象候補を選考し、理事会の承認を受けて、調査・研究の助成金、国際研究集会援助金及び貸付金等の配分を行なう。

調査研究助成金総額：420万円

選考委員会費：10万円

広報活動（定款第4条の四）

地学雑誌のウェブ掲載の推進と、ホームページの維持・拡充を図る。

(1) 現在実施中の、新刊（1号遅れ）のオンライン公開を継続するほか、総目録の搭載（新規）を行う。

(2) ホームページの維持・拡充（<http://www.geog.tokyo.or.jp> への移行も含む）

広報委員会費：60万円

図書室の整備（定款第4条の五）

図書製本、図書整理を継続して行うほか、東京地学協会報告をCD-ROM化し、永年保存するとともに、希望者に対する有料頒布を行う。

図書委員会費総額：110万円

内訳：図書製本、図書整理費（アルバイト賃金）等60万円、

東京地学協会報告CD-ROM製作費50万円

（14年度に東京地学協会報告の目次は入力済み）

将来計画委員会による長期計画の検討（定款第

4条の八）

協会の今後の課題を検討するため、引き続き、常設委員会として理事会の要請による案件の資料・情報の収集、問題点の整理などを行う。

委員会費：10万円

ジオエキスパート委員会による新規事業の発足（定款第4条の八）

協会の社会貢献事業の一つと位置付け、公募により自治体・NPO・企業などに、地学関連の（登録）専門家を講師などとして派遣する事業を開始する。

総額：60万円

内訳：委員会費：16万円、ホームページ作成・維持費：15万円、パンフレット作成費：10万円、協会負担の講師派遣費など：19万円
地学クラブ講演会の支援（定款第4条の一）

地学クラブは、地学全般の新しい発見や研究の動向等に関する講演会を開催し、会員の知識向上を目指すことを目的としている。この地学クラブの活動に対して協会は支援を行う。

講演会は年10回程度開催する。講演会の演題と講演者を決めるため、年4回程度世話人会を開催する。

地学クラブ費：45万円

(2) 収益事業（会館特別会計）（定款第4条の七）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業当協会の公益事業を安定的かつ継続的に行うため、収益事業（会館特別会計）から一般会計へ資金的支援を行う。そのため、引続き地学会館ビルの一部を賃貸する。また、引続き必要に応じた、または長期計画に則った改修を行っていく。

収支予算書 総括表

平成17年度 第127期

(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

(単位:円)

科 目	一般会計	会館会計	相 殺	合 計	前年度予算額
I. 収入の部					
基本財産運用収入	10,000	0	0	10,000	10,000
会費収入	4,100,000	0	0	4,100,000	4,100,000
事業収入	7,000,000	0	0	7,000,000	7,350,000
会館収入	0	121,584,000	-1,966,000	119,618,000	119,618,000
雑収入	150,000	50,000	0	200,000	200,000
繰入金収入	46,200,000	0	-46,200,000	0	0
当期収入合計	57,460,000	121,634,000	-48,166,000	130,928,000	131,278,000
前期繰越収支差額	50,527,215	43,347,478	0	93,874,693	116,699,278
収入合計	107,987,215	164,981,478	-48,166,000	224,802,693	247,977,278
II. 支出の部					
事業費	40,053,000	0	-983,000	39,070,000	40,078,000
会館事業費	0	50,156,000	0	50,156,000	48,544,000
管理費	16,653,000	0	-983,000	15,670,000	16,578,000
その他の支出	4,950,000	0	0	4,950,000	5,080,000
固定資産購入支出	200,000	0	0	200,000	200,000
借入金返済支出	0	21,536,000	0	21,536,000	22,102,000
特定預金支出	0	15,821,000	0	15,821,000	37,453,000
繰入金支出	0	46,200,000	-46,200,000	0	0
予備費	1,000,000	1,000,000	0	2,000,000	2,000,000
当期支出合計	62,856,000	134,713,000	-48,166,000	149,403,000	172,035,000
当期収支差額	-5,396,000	-13,079,000	0	-18,475,000	-40,757,000
次期繰越収支差額	45,131,215	30,268,478	0	75,399,693	75,942,278

社団法人 東京地学協会 平成 17・18 年度役員，評議員，委員会委員等

名誉会員 斎藤正次，木村敏雄

役員 会長 前島郁雄

副会長 盛谷智之，大森博雄

理事 江藤哲人，笠原順三，高村弘毅，田村俊和，西田耕一，長谷紘和，三上岳彦，

監事 嶋崎吉彦，田邊 裕

評議員 小玉喜三郎，斎藤常正，谷内 達（以上 3 名，平成 13 年選出，17 年再任）

岩田修二，岡田博有，小川克郎，柏木高明，斎藤靖二，杉浦芳夫，増田富士雄，守屋以智雄（以上 8 名，平成 15 年選出，17 年再任）

在田一則，石原丈実，加藤碩一，斎藤享治，田林 明，鳥海光弘，福田正己（以上 7 名，平成 17 年 5 月選出）

委員会委員等

庶務委員会 委員長：長谷紘和，委員：大村一夫，中尾征三，松久幸敬，藁谷哲也

経理委員会 委員長：西田耕一，委員：柏木高明，佐藤憲隆，茂木 睦

会館委員会 委員長：盛谷智之，委員：石原丈実，中川 章，浜田真之，細井将右，柳井修一，吉田鎮男

編集委員会 委員長：笠原順三，委員：荒井良雄，伊藤 慎，江口孝雄，下司信夫，下川浩一，鈴木毅彦，瀬野徹三，田中裕一郎，田村俊和，西澤 修，長谷川 均，松本 淳，丸山茂徳，宮内崇裕，村山裕司，山川修治，吉永秀一郎，若林芳樹

行事委員会 委員長：三上岳彦，委員：伊藤谷生，久保純子，白尾元理，平井幸弘，福澤仁之

図書委員会 委員長：江藤哲人，委員：小出 仁，千歳寿一，長瀬和雄，丸井敦尚

広報委員会 委員長：江藤哲人，委員：小松陽介，早川由紀夫，丸井敦尚，宮内崇裕，吉田圭一郎

助成委員会 委員長：大森博雄，委員：漆原和子，小池一之，小玉喜三郎，杉浦芳夫，高村弘毅，萩原幸男，福田正己，松本 良

日本地学史編纂委員会 委員長：今井 功，委員：石山 洋，高村弘毅，黒田和男，谷本 勉，藤井陽一郎，八耳俊文，山田俊弘

将来計画委員会 委員長：田村俊和，委員：大森博雄，古宇田亮一，滝沢由美子，野上道男，盛谷智之

ジオエキスパート委員会 委員長：野上道男，委員：盛谷智之，岩松 暉，大島章一，松田時彦，松山洋，水野篤行，守屋以智雄

地学クラブ 世話人代表：斎藤靖二，世話人：笠原順三，鹿園直建，新藤静夫，谷内 達，萩原幸男，町田 洋，吉田鎮男